

安心して働き続けられるために。[特集] 職場定着支援

社会福祉法人そよかぜの機関紙

第121号

発行2015.4.19

年4回発行



社会福祉法人そよかぜ

羽村市栄町3-3-1

☎042-578-0855

fax.042-578-0466

そよかぜだより

会社で働き続けるためには、ただ仕事を覚えて、それをこなしていただくだけでは勤まりません。周囲の人達との良好な関係を築き、安定した体調を維持しながら、自分の働く目的や目標をもって取り組むこと

で、継続して働くことができます。しかし障害のある人の中には、その特性からコミュニケーションが苦手で、人間関係がうまく作れず職場で孤立してしまったり、職場からの要求水準が高く持っている力を十分に発

揮できずに悩んでいる方もいます。

また、採用する会社も人事部門に障害者雇用に対する理解があっても、受け入れる現場では障害のある人どう接すればよいかという不安もあります。

安心して働き続けられるために [特集] 職場定着支援

榎戸勇也=文(表紙・P.2-3)

(羽村市障害者就労支援センター エール)



障害者就労支援センターではそういった双方の不安を解消し、障害のある方には「安心して働き続けられるように」、会社には「安心して雇用し続けられるように」本人と職場の間に立って、橋渡しをする支援を行います。

例えば…

- 対人関係の不安を和らげ、職場に溶け込めるようにする。
- 職場の人に、本人の障害を理解してもらう。
- 仕事の要求水準が高い場合には下げてもらう。

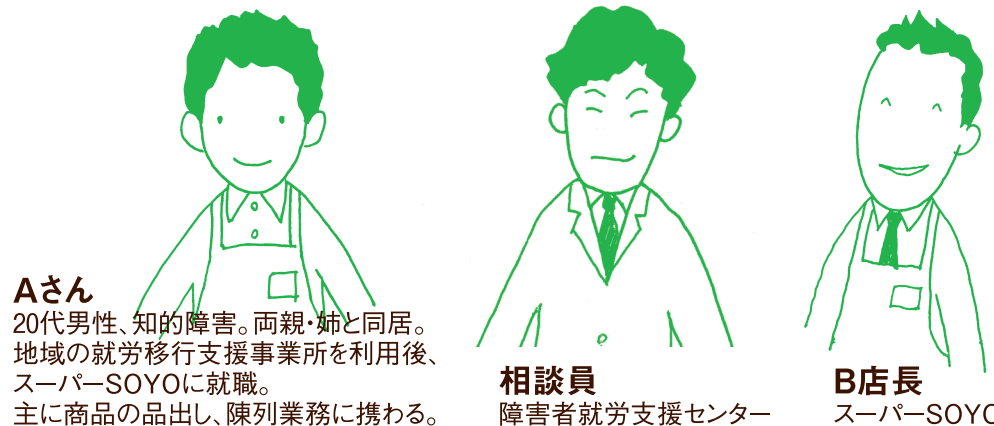
以上はほんの一例ですが、障害のある方が職場に適応するためには、個人と職場という環境のマッチングが重要です。そのため障害者に対

してのみ向上や改善を求めていくだけではなく、職場に働きかけていくことも大切です。

職場定着支援って、どんなこと？

本人の障害特性、職種、職場環境によって支援内容や方法は異なりますが、本人や職場の担当者の声を聞くことはとても大切です。
どんな支援をしているのか、一つの事例をもとに紹介します。

※この事例は、過去の事例を参考にした架空のものです。



Aさん

20代男性、知的障害。両親・姉と同居。地域の就労移行支援事業所を利用後、スーパーSOYOに就職。主に商品の品出し、陳列業務に携わる。

相談員

障害者就労支援センター

B店長

スーパーSOYO

平成26年4月 スーパーSOYO入社 ～仕事、職場の環境に慣れるまで～

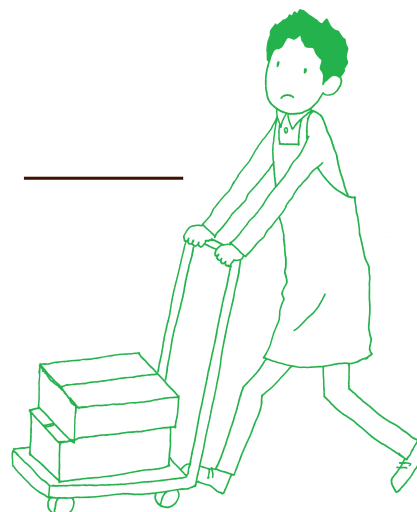
職場訪問

就労移行支援事業所の職員と職場訪問しB店長と副店長にご挨拶。支援機関の役割などについて説明する。

職場での様子

現場で働く方はパートさんが多い。開店の前後は商品の品出しを急いでやらなければならない。昼前はお客さんが多く、店内が混みあう。また、特売日などは、商品の補充が随時必要となる。

安心して働き続けられるために 【特集】 職場定着支援



支援センターにて Aさんと面談～仕事の様子を確認した

Aさんの働く目標は「お金を貯め、一人暮らしをする」こと。使い方や貯金の仕方などを一緒に考えた。職場のチーフより、作業をもっと早くやるように指摘があった。

ここ大事!!

面談にて仕事の振り返りを行い、課題やSOSを早めにキャッチするよう心がけた。現実的な目標設定（お金の使い方）をすることで、仕事のモチベーション維持につながった。

再度職場訪問

その後も定期訪問を行い、B店長から様子を伺った。作業スピードや集中力持続の課題はあるが、現場でフォローしているので大丈夫とのこと。

平成26年10月 入社から半年経過 ～家庭からの不安に対して～

Aさんの両親から相談

有給休暇の取得方法と、職場での評価について、Aさんの働きぶりはどう見られているかという内容の相談あり。

職場訪問 B店長と面談

あいさつの声は小さいが、徐々にできればいい。全体的に仕事はできている。他の人から色々と言われても混乱するだろうから、Aさんへ注意するのは自分（店長）だけにしている。周りの従業員は見守ってくれている。

ここ大事!!

家庭より不安の声があり職場訪問をした。その報告を家庭にした際、職場での評価を伝えたところ、安心した様子だった。職場ではAさんに対しての指示伝達や周りの人からのフォロー体制ができています。



平成27年4月 入社から一年経過 ～現場担当者の人事異動と生活面での課題～

職場訪問

B店長と担当者が異動したため、C店長へご挨拶。

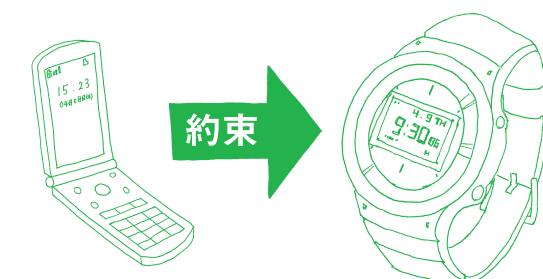
職場での様子

●最近、集中力が途切れがちで、作業中にぼーとしていたり、あくびをして眠そうな様子も見受けられる。
◆仕事中に携帯電話を見ているときがある。あいさつは大きな声でできている。

支援センターにて 家族、Aさんと面談

＞家族からAさんの様子について
最近疲れたと言って夕食前に寝ている。そのため夜は眠れなくなり、遅くまでゲームをしていることもある。朝は二度寝してしまうこともあり、間に合わない時は父が店まで送ることもあった。
●早寝を心がけることを伝え、家庭での声掛けをお願いした。

＞Aさんから職場の様子について
店長が代わり頼まれる仕事が増えた。きつく注意をされたことが嫌だった。携帯電話は仕事中の時間確認に使用していた。
◆時間の確認は腕時計をすることにし、携帯電話はロッカーへしまうことを約束した。



再度職場訪問

C店長に家庭での様子を伝え、
●〈仕事中の態度について（お客さんの目もある中での業務であること）〉、〈仕事中に携帯電話は使用しない〉と約束したことを報告。
また、Aさんの一日の作業の流れを確認し、仕事内容を整理した。その際にAさんの特性を伝え、指示の出し方や注意の仕方について、配慮をお願いをした。C店長も常に現場にいるわけではないので、今まで通り現場で担当となってくれる方の選任をお願いした。

ここ大事!!

職場での人事異動があり、これまでの人間関係やサポートの体制に変化があったため、訪問した。今まで課題だった“あいさつ”はできるようになったが、新しい問題も出てきた。以前は携帯電話の使用も守られていたが、就職して一年経ったところで職場でのルールがおろそかになってしまった。夜更かし等、生活面での課題が集中力の低下につながり、仕事にも影響が出た。

今後の職場定着支援に向けて ～課題の抽出、生活面も含めた継続的な支援～

その後も定期訪問や面談を行い、Aさんの様子を確認しています。課題となる部分はそのつど確認や修正を行い、家族とも連絡をとりながら情報を共有し、家庭でもサポートをいただいています。先日訪問した際に、現場のパートさんからAさんの真面目に働く様子を「一生懸命頑張っていますよ」という声も聞かれるようになりました。引き続きAさんの就労継続にむけてサポートします。



見守り、応援し続ける存在として

障害者が一般企業で働いていると、交友関係や金銭面、健康管理等の問題が、仕事への姿勢や職場での人間関係に影響することがあります。そのため働き続けるには職場での支援に加えて、生活面での支援も欠かせません。関係機関や家庭と連携をとりながら

取り組んでいくことが大切です。また、順調に働いていても、生活環境や職場での変化（仕事内容の変更や担当者異動等）により、新たに課題が生じる場合があります。定期的な訪問などを通じて勤務状況を把握していく必要があります。

以上のように就労支援の中でも、継続してかかわっていくのが職場定着支援です。これからもその方の就業生活を一歩後ろから見守り、“働き続ける”を応援していけるような、そんな存在でありたいと思います。

平成27年度事業計画概要

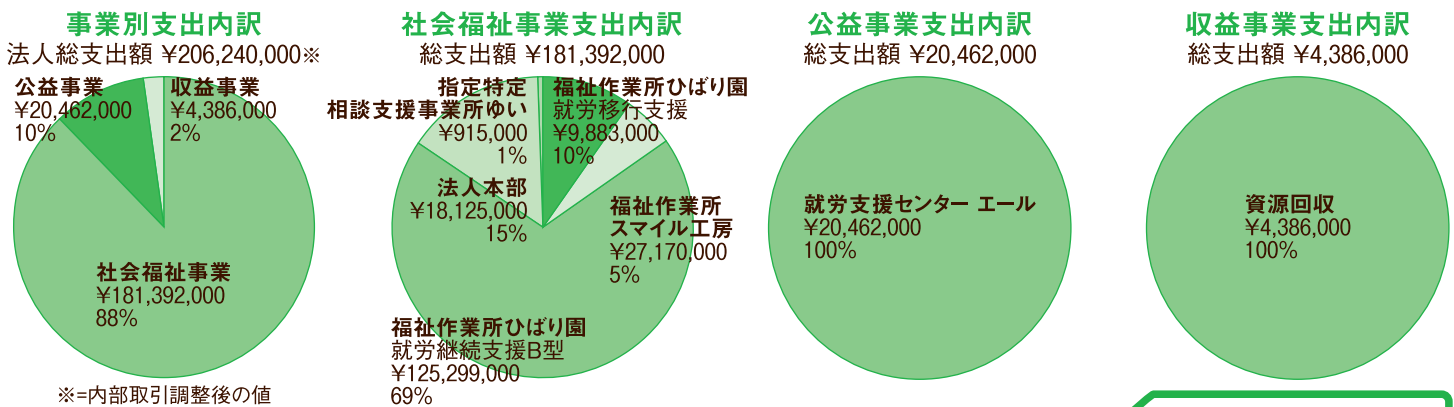
堀内政樹 社会福祉法人そよかぜ施設長

法人創設から6年が過ぎ、この間、近隣地域に様々な障害福祉サービス事業所が開所するなど、そよかぜを取り巻く事業環境も大きく変化する中、昨年度、グループホームほほえみ館とつぐの施設における宿泊訓練の2事業を終了しました。今までサービスをご利用頂きました皆様、また、両事業の運営にご理解とご協力をいただきました多くの皆様に、心より厚く御礼申し上げます。本当に有難うございました。また一方、新たな事業として指定特定相談支援事業所ゆいを本年1月に立ち上げました。このような事業再編を経て、本年度は法人全体で五つの事業を実施し、それぞ

れに新年度の目標を掲げ計画的に業務を推進します。そうした中、法人としては、次の三つの課題に重点的に取り組みます。一つ目は、地域ニーズに応じた福祉的就労及び相談支援の充実です。特に、近年の精神保健福祉ニーズの動向は発達障害や高次脳機能障害など従来の精神障害の枠にはまらない多様な障害への福祉的支援や退院直後、あるいは自宅での引きこもり生活などから一歩を踏み出した人などへの“居場所”提供や相談支援が求められています。二つ目は、本年1月にスタートした「指定特定相談支援事業所ゆい」の事業安定化を図ります。障害福祉サービスを利

用するには「サービス等利用計画」の作成が必要になり、これに基づくケアマネジメントによる支援が求められます。ゆいは、障害福祉サービス利用希望者が円滑にサービス利用につながり、快適な地域生活を送れるよう支援します。三つ目は、本年度から完全実施が求められる「社会福祉法人 新会計基準」に基づく会計経理事務への円滑な移行と効率的な実施を図ります。そよかぜは、法人創設以来積み上げた業績や経験を活かして、福祉サービス品質の向上と財務体質及び組織体制の強化を図り、地域に求められる社会福祉法人として障害者福祉の発展増進に努力してまいります。

平成27年度 社会福祉法人そよかぜ当初予算額



平成27年度 役員改選

平成27年度 役員改選

本年3月に、任期満了に伴うそよかぜ役員の改選が行われ、以下の方々が新役員に選任されました。任期は3月7日から2年間となります。

理事長 野崎功市	監事 羽村義男 石田 茂	評議員 井上克巳 川津紘順 橋本唯隆 水上京子 橋本芳明 並木伸子 丹生忠三	羽村富雄 川村孝俊 下田忠男 栗原悦男 太田国生 田村志津子
副理事長 加藤照夫			
理事 白井信行 田村義明 田口尚子 堀内政樹			



写真上段左から、白井信行理事、田口尚子理事、田村義明理事、堀内政樹理事。
写真下段左から、石田 茂監事、加藤照夫副理事長、野崎功市理事長、羽村義男監事。



【新連載】

そよかぜのご近所さん

ここ羽村市近隣地域には、たくさんの福祉施設があります。それぞれの施設では、様々な特色を活かした取り組みを行っています。意外と知らないことも多い他の施設の様子、見せてもらいました。

〈第1回〉 友愛学園 (青梅市成木)

社会福祉法人友愛学園は、1957年開設の老舗施設で、知的、発達障害を持つ幼児から高齢者まで、幅広い年齢層の利用者約280名が利用しています。自然豊かな青梅の地に根ざし、24時間の生活のケアと自立に向けたサポートに取り組んでいます。隣接する作業棟では、陶芸、和紙、木工、染色、織物、絵画などの創作活動や音楽療法、理学療法などを行っています。それぞれの作業に専門のスタッフを配置し、利用者一人ひとりの独創的な表現力や、その芸術活動を支援しています。作られた作品は、展覧会などを通して販売され、利用者の工賃になっています。4/24～29の間、下井草にあるギャラリー一五峯(☎03-3395-9956)でTシャツ展示販売会が開催されます。

社会福祉法人 友愛学園
東京都青梅市成木2-107
☎0428-74-5453
Fax.0428-74-6906
<http://www.yuaigakuen.or.jp/>



1 たくさんの作品が飾られたアトリエの作業スペース。描かれている和紙は、桑の枝を原料として漉いたものを使用している。2 和紙にひたすら書かれる文章は、スタッフが手渡した谷川俊太郎著『ころ』のページ。3 たくさんの作品が飾られたアトリエでは常時15人ほどの利用者が様々な作業に取り組んでいる。4 途切れることのない集中力。この作業が好きで一日行っているという。作業の合間に15分ほど散歩の時間を取り入れながら作業が続けられている。5 草木や天然の原料を使って、染めから行われたTシャツは、4月に行われる展示会で販売もされる。売り上げは利用者の工賃になる。

有意義な対話 市長と語る21 タウンミーティング

堀内政樹=文
社会福祉法人そよかぜ施設長



そよかぜ役職員の声に耳を傾ける、並木 心市長。

新春1月15日に、そよかぜは「市長と語る21(タウンミーティング)」に参加させていただきました。皆様もご存じのように、本ミーティングは「市民及び市民団体との対話を進め、市民の目線に立った開かれた市政を運営する」ために広く行われているものです。今回、そよかぜは、羽村市を中心に活動する地域の障害者福祉事業者として市担当課から本ミーティングへの参加を依頼されました。そよかぜは、平成11年に地域の障害者福祉の増進・発展に貢献することを目的に、羽村市行政当局のご理解とご協力のもと、任意団体「障害者団体連絡会そよかぜ」としてスタートしました。以来、市当局には、事業運営の全般に渡り力強いご支援をいただいております、ま

た、最近の変わりゆく地域の障害福祉ニーズの実情に伴い、そよかぜが抱えている課題なども含め、羽村市行政のトップである市長と直接に意見交換ができることは、大変有意義であると考えミーティングへの参加をお受けしました。

・ ・ ・

当日は、市側から並木市長をはじめ、副市長、教育長、議会事務局長、各担当部長など20名余の方が、また、そよかぜ側からは、野崎理事長をはじめ、役職員合わせて24名が出席しました。午後7時から始まったミーティングは、並木市長の挨拶及び野崎理事長の挨拶に続き、市側から羽村市の障害者福祉施策についての報告があり、この後、そよかぜの紹介及び課題・懸案事項について

懇談が行われました。そよかぜが事前に市担当課に提出していた、「そよかぜの課題・懸案事項」について、並木市長からその一つひとつに対して市としての考え方や市長の感想など丁寧に説明していただきました。これに対して、そよかぜ側からも野崎理事長をはじめ役職員から質問や意見などがあり、市長以下担当部長も交えて活発な質疑応答が展開され、和やかな雰囲気の中にも忌憚ない意見交換ができました。

・ ・ ・

今回のミーティングは、地域の障害者福祉を着実に前進させていこうという市及びそよかぜの思いを、改めて相互に確認できた有意義な時間であったと感じました。



1



2



3



4



5

1 野崎理事長と熱心に意見交換をする、並木 心市長。2 市長をはじめ、副市長、教育長、議会事務局長、各担当部長など、20名余の方が出席しました。3 野崎理事長をはじめ、役職員合わせて24名が出席しました。4 市長からの質問に答える堀内施設長。5 終始和やかな雰囲気の中で。

ありがとう「つくしの家」

先日、家に電報が届きました。内容は20数年前に自立生活をされた方の訃報でした。彼が自立生活をスタートするきっかけになった国際障害者年から早くも35年が経とうとしています。当時の自立の考えは身体が不自由であっても家事や炊事といったことが健常者と同じようにできることが求められる風潮にありまし

た。施設生活を長く送ってきた彼には自立生活は無理だという反対の声が多くありました。しかし彼は障害者団体による自立生活プログラムなどに参加し、少しずつ実績を重ねて理解者も増やしていきました。そして、入所施設から念願の地域生活に向けて巣立っていきました。時代と共に環境や制度も変遷されて

コラム「福祉の時をつかむ」

きたように当法人の「宿泊訓練施設つくしの家」のあり方も変化してまいりました。制度を超えて障害者の自立生活に向けた訓練の場として当時は先駆的な事業でもありましたが、ここで役割を終え事業を終了することとなりました。これまで、つくしの家を育て支えてきてくださった方々に深く感謝を伝えたい。

そよかぜホームページ <http://soyokaze-hamura.com>

各事業所からのお知らせ



福祉作業所ひばり園

4月と言えば入所式。今年は桜もちょうどよく咲き、文字通り花を添えてくれました。今年度は6名の新生を迎えました。フレッシュなうえにやる気に満ちてきて下さる新生にみんなもパワーをもらいます。ということは、昨年新生だった方たちも先輩デビュー!「先輩だね～」と言われて嬉しそうに張り切っています。1年たつと見違えるほど。相乗効果でますます元気な皆さんにこたえられるよう、職員もパワフルにいきたいと思います。

リサイクルショップくれよん

お店には夏物も並び始めました。ゴールデンウィークを前に、行楽用品もたくさん

用意しております。陽気も良くなり、散歩がてらお寄りください。スタッフ一同お待ちしております。



福祉作業所スマイル工房

パンメニューのお休みのお知らせ。クリームパン、あんぱん、フレッシュリング、チーズパン、ツナコーンは5月までで一時お休みします。6月から9月まで期間限定でカレーパン、ピロシキ、塩あんぱん、抹茶あんぱんの販売を予定しています。パン・クッキー作業班では商品開発や作業内容などのミーティングをして新商品の発売を予定しています。

障害者就労支援センター エール

「エール」は、羽村市より社会福祉法人そよかぜに委託された障害者就労支援

事業です。羽村市在住の障害のある方を対象に、就職を希望している方や働いている方等からの相談を受け、支援を行っています。

利用時間：月曜日～金曜日、午前9時～午後5時。今年度の第一土曜日開所は、5/2、6/6、7/4、8/1、9/5、10/3、11/7、12/5、2/6、3/5です。※ご相談には予約をお願いします。

宿泊訓練施設つくしの家

羽村市手をつなぐ親の会より宿泊訓練事業を受け継ぎ運営しておりましたが、当法人の事業再編に伴い本年3月をもちまして事業を終了することとなりました。23年間の長きに渡りご利用いただきましたことを深く感謝申し上げます。

グループホームほほえみ館

ほほえみ館は、当法人の事業再編により本年3月をもちまして閉所することとなりました。入居されていた4名の方の進路も決まり新たな生活がスタートしています。これまで支えていただいた皆様に心より厚く御礼申し上げます。

資源回収のお問合せは「そよかぜ」へ。

編集後記

学生から社会人になって15年が経ちました。卒業後、出版社の編集デザイン部に入社した私は、たくさん怒られ、たくさんのヒントを拾いながら必死に仕事を学びました。終業後、上司や先輩たちの「一杯行こう」の一言で居酒屋に行き、叱咤激励の言葉をいただいたのも懐かしい思い出です。そういった先輩たちや昨年亡くなった西岡さんなど、私はたくさんの人の背中を見て、仕事とは、社会人とは何たるかを学んできました。教えられるのではなく、自ら学ぶ。その姿勢を忘れずと思う春です。

各事業所の連絡先



社会福祉法人そよかぜ事務局

☎042-578-0855

福祉作業所ひばり園

☎042-555-5512

福祉作業所スマイル工房

☎042-578-2723

リサイクルショップくれよん

☎042-578-2575

羽村市障害者就労支援センター エール

☎042-570-1233

指定特定相談支援事業所ゆい

☎042-555-5512